

「話す」ことに重点をおいた国語科の指導

—— ドリル学習の実践を通して ——

1 「話す」ことの基本的立場

子どもの行動を社会化していく過程で、「ことば」は重要な役割をもっている。ことばをたくさん知り、生活の中で正しく使うことは、より充実した豊かな心情を育て、対人関係を円滑にしていく上で大切である。特に「話す」ということは、その基本であり、中学部では、国語科の四領域の中でも、「話す」ということをおろそかにしない実践を心がけ、取り組んでいる。

指導に当っては、話題を具体生活より選ぶよう心がけ、話に目的意識を持たせるようにした。例えば、大山林間学校の後では、印象の強いうちにスライドに構成し、それを使って固苦しい感じを和らげ、文型にそって自由に話す場合を設定し、話し合わせた。ここでは、毎時間のはじめにドリルするカードによる「ことば」の学習を取り上げ、実践の一途を述べてみることにする。

2 実践例 絵カード・文字カードを使って

毎時間のはじめに、下図のような絵カード・文字カード・助詞カードを使って、正しく助詞を使い分けたり、正しく助詞を使って二語文・三語文を作ったりするドリル学習を行なっている。

- ① 絵カードをはる。
- ② 絵カードの下に、名詞の文字カードをはる。
- ③ ②の文字カードの下に、それに対応する動詞の文字カードをはる。
- ④ 正しい助詞を入れて二語文を完成させる。
- ⑤ 主語や修飾語を入れて三語文を作る。

このようなドリル学習では、子どもたちが学習方法を身につけることが第一条件で、学習に慣れることが大切である。名詞カードの学習では得意で取り組んだ子どもたちも、動詞・助詞のカードが入るととまどいが多くなった。

ここでT子の学習への取り組みと反応について述べてみたい。

T子は、IQ 35、発音不明瞭で、言語理解がかなり劣り、四月当初は、紋切り型の一語文での受け答えが多かった。学習面での発言は、友だちの模倣が多く、オーム返しになり易かった。

下記の取り組みから最近のT子を見ると、しゃべることに抵抗をあまり示さなくなってきた。応答が紋切り型の一語文から、「～ます、～でした」の二語文になってきた。そして簡単な二語文の伝言が少しずつできるようになってきたなどの成果をみることができる。

学習への取り組み	T子の反応
① 絵カードの絵を見て何の絵かを言う。 ② 絵カードの下に名詞の文字カードをはる。 ・ドリル学習をくり返す。 ③ 名詞カードの下に動詞カードを対応させてはる。 ・何度も復唱し、名詞カードとの対応を覚える。 ④ 助詞カードを入れた二語文を作る。 ・正しい助詞を入れた文の復唱をくり返す。	① 全部正答 ② ・2字の単語ならどうにか拾い読みで意味がとれた。 ・3字以上の単語は自分で意味がつかめず、教師が読んでやることで絵カードと対応できた。 ※3字以上の単語でも「みかん」「りんご」等日常生活の中で見る食べ物のカードは、読むより形で判断して全部正答している。 ・数回で完全に絵と対応できた。 ③ 自分が読んでできたのは「たべる」のみであった。 ・ほとんどまちがえなくなってきた。 ④ 普段の会話が助詞ぬきが多く、定着をはかるのが難しかった。 ・日常生活に密着した事についてはほぼ正しく使えた。

3 子どもの反応・考察

- カード合わせというゲーム的要素を取り入れたことにより、遊びのような軽い気持ちで、子どもたちが学習に取り組むことができた。
- 練習を重ね、学習方法が身につくにつれて、カードを見ただけで対応できるようになった。
- 主語や修飾語を入れた三語文は、自由にことばを選ばせたこともあって、喜んで作った。
- カード合わせで使ったことば以外のことばを使って文を作ることができるようになってきた。
 《例》 バスにのる—のる—自転車にのる くつをはく—はく—ほうきではく
- ドリル学習で使っていることばでの文作りは回を重ねるごとに正しくなってきた。しかし、普段話していることばや、日記に書く文では、まだまだ助詞や動詞の使い方がまちがっていて意味の通らない文になっていることが多い。

○現段階での生徒の実態は次の通りである。

項目	生徒名	Y・T	T・Y	Y・A	
1	絵カードと名詞カードの対応	◎	◎	◎	
2	名詞カードと動詞カードの対応	◎	○	◎	
3	助詞の 使い方	はな(◎) さく。	◎	○	◎
		ねこ(◎) なく。	◎	○	◎
		かさ(◎) さす。	× 時々「が」	× 助詞ぬけ	◎
		くつ(◎) はく。	◎	○	◎
		りんご(◎) たべる。	◎	○	◎
		ほうし(◎) かぶる。	○	× 助詞ぬけ	◎
		えんぴつ(◎) けずる。	○	× 助詞ぬけ	◎
		バス(◎) のる。	◎	○	◎
	ブランコ(◎) のる。	○	○	◎	
4	名詞カードのみの提示での文作り (カードを各生徒に配り、自分に 配られたカードで文を作る。)	あべさん(◎)ブランコ(◎)のる。 りんご(◎)みんな(◎)たべました。 ねこ(◎)さかな(◎)たべる。 はく(◎)ぬい(◎)せな(◎)たたいている。	えんぴつ(◎)けずる。 かさ(◎)かぶる。 ブランコ(◎)のる。 もっくん(◎)テレビ(◎)です。	えんぴつ(◎)かん字(◎)かく。 学校(◎)来た時、花(◎)水(◎)やります。 わたしのすきなみかん(◎)たべました。 昼から本(◎)よみます。	
5	動詞カードのみの提示での文作り (4と同様))	はな(◎)さく。 ほうし(◎)かぶる。 かさ(◎)さす。 山(◎)のぼる。	バス(◎)みんな(◎)のる。 くつ(◎)はく。 ねこ(◎)なく。 本(◎)よむ。	バス(◎)のって山までずっと行きました。 ほうき(◎)はく。 くつ(◎)はく。 てるみさん(◎)ブランコ(◎)のる。	

今後は、ドリル学習の語彙をふやし、主語+目的語+動詞の三語文の定着をはかるとともに、助詞の使い方も合わせて指導していきたい。

(徳田 純子)